JAO
The Federation of Japan Amateur Orchestras Corp.
発　行　所：(社)日本アマチュアオーケストラ連盟
発行責任者：森下 元康
〒441-8028　豊橋市立花町46 光陽ビル3F
電話(0532)33-6885　FAX(0532)33-6875
e-mail:info@jao.or.jp　http://www.jao.or.jp/
vol.45

第28回全国アマチュアオーケストラフェスティバル沖縄国際大会成功裏に終了しました

大会実行委員長（沖縄交響楽団 団長）**與儀 幸英**

「沖縄から世界に平和を発信！」を合い言葉に初の地方開催となった、20世紀最後の九州・沖縄サミットから1週間後の平成12年7月28日、29日、30日に宜野湾市の沖縄県コンベンションセンターで、第28回全国アマチュアオーケストラフェスティバル沖縄国際大会が催されました。

青い空・白い雲・コバルトブルーの海で皆様方をお迎えしたかったのですが、あいにくの天候でご期待に添えず、大変申し訳なく思っております。

今年は総裁の高円宮殿下をはじめ、日本各地のJAO会員だけではなく、アジアの若い仲間たちと、ドイツからもご参加をいただき、開催県を代表し衷心より感謝申し上げます。

さて、7月28日の開会式では沖縄県青少年合同オーケストラにより、佐渡山安信氏の指揮で与儀亨作曲「21世紀の森」と富原守哉作曲「平和への憧憬」が演奏されました。午後から、(Ⅰ)JAOユースオーケストラでは、井﨑正浩氏の指揮により、立花麻里絵さん（豊橋ユース）をコンサートマスターにお招きして、リムスキー・コルサコフ作曲「スペイン奇想曲」、(Ⅱ)台北県大豊国小第一届管弦楽団によるA･ドヴォルザーク作曲「新世界より第四楽章」他4曲、(Ⅲ)JAOフェスティバルオーケストラAでは、飯守泰次郎氏の指揮により、三浦章広氏をコンサートマスターにお招きして、R･シュトラウス作曲／交響詩「ティル・オイレンシュピーゲルの愉快ないたずら」、(Ⅳ)JAOフェスティバルオーケストラBでは、矢崎彦太郎氏の指揮により、植木三郎氏をコンサートマスターにお招きして、C･ドビュッシー作曲／交響詩「海」等それぞれの練習がスタートしました。

また、雨にも拘わらず多くの皆様方がパート別懇親会に参加され、オリオンビールを片手に、又は泡盛で、のどを潤しながら沖縄の食文化を大いに満足されたことと思います。ホスト役の私達としては、せっかく沖縄に来られたのに、あいにくの雨で皆様方に対して心苦しい気持ちもある反面、飲み過ぎると明日からの練習に差し支えないか、大変気がかりでした。しかし、翌朝は全員遅れることなく練習に参加している様子をみて、大変安堵いたしました。

今回は、演奏時間そのものは短いのですが、難曲といわれる作品で、最終日のコンサートでは僅かな期間にも拘わらず、見事に仕上げ、演奏をご披露して戴き、聴衆の皆様方からも「沖縄で100人規模の迫力のあるオーケストラが聞けて大変感激しました」「わずか3日間の練習でこの様な難曲が仕上がるのですか？」「ホントに皆さんはアマチュアですか？」等など、嬉しいご感想などが沢山ありました。

この沖縄国際大会では、連盟本部のご理解とご協力をいただき、韓国、香港、シンガポール、インドネシア、そして台湾などアジアの仲間達をお招きして、言葉や文化・習慣を越え、世界の共通語である音楽を通して、JAOユースオーケストラで有意義な交流が持たれました。

なお、当沖縄国際大会を開催するにあたり、多大のご支援を賜りました文化庁はじめ日本芸術文化振興会、トヨタ自動車株式会社、ＮＥＣ、(財)日本音楽財団、中琉文經協會駐琉球辦事處、沖縄県、那覇市、沖縄電力株式会社など関係機関及び諸団体には心より御礼申し上げます。

お出かけください、名古屋市でのフェスティバルへも

第29回全国アマチュアオーケストラフェスティバル名古屋大会
国際アマチュアオーケストラフェスティバル2001イン名古屋
大会実行委員長　**足木 準治**

台風の影響により“紺碧の空、エメラルドグリーンの海”は拝めませんでしたが、沖縄のフェスティバルは運営面をはじめ隅々まで神経が行き届いた、実に立派なフェスティバルでした。

特にうらやましく、かつ、いいなあと感じたのは、ユース並びに社会人の歓迎レセプションでの踊りと太鼓のステージです。オケのメンバーの皆さんが中心となって演じられましたが、拝見しているうちに「ああ、沖縄にきてよかったな」という実感が、心のなかに広まってまいりました。沖縄の皆さん本当にお疲れ様でした、そしてありがとうございました。

さて、来年の会場は愛知県名古屋市（愛知芸術文化センター）です。沖縄のような風情はありませんが、都会の機能を充分生かしたメリハリのある大会にしたいと考えています。

フェスティバルコンサートは基本的には例年同様ですが、社会人Aオケは外山雄三さんによるプロコフィエフの交響曲第7番『青春』、社会人Bオケが（今話題の）西本智美さん指揮でプロコフィエフの『ロミオとジュリエット』、ユースオケは栗田博文さんによりホルストの『惑星』全曲、海外からの招聘オケはイギリスからバーミンガム市スクールオケ100名がやってまいります。加えて海外からは、世界アマチュアオーケストラ連盟加盟オケを中心に20カ国から50名の参加者が予定されています。ということで、国際色の強いフェスティバルになろうかと思いますが、ご参加の皆さんには多いに国際交流も深めていただきたいと思っています。

さらに来年の特色は、楽器別ワークショップの開設です。オーボエのラピエール氏（元ボストン響）を中心に、フルート、クラリネット、ファゴット、ホルンの一流講師を海外から招聘し、基本からアンサンブルまでをレッスンしていただく予定です。人数制限によりステージにあがれない皆さん、どうぞこちらへご参加ください。

愛知県内のオケの皆さんと力をあわせて、「名古屋に来てよかったね」といわれるフェスティバルにしたいと思います。実行委員会のメンバー一同、皆さんのご参加を心からお待ちしています。

来年の８月は名古屋市でお会いしましょう！

写真で綴る沖縄大会

7月28日（金）

懐かしい顔が集まってくる受付です。ホストオケの皆さんの手際の良さ！

開会式、與儀大会実行委員長のあいさつ。「皆さん、ようこそ沖縄へ！」

この日のために編成された「沖縄県青少年合同オーケストラ」による歓迎演奏

ユースオーケストラ　指揮：井﨑正浩
リムスキー＝コルサコフ：スペイン奇想曲

Aオーケストラ　指揮：飯守泰次郎　コンサートマスター：三浦章広
R.シュトラウス：交響詩「ティル・オイレンシュピーゲルの愉快ないたずら」

Bオーケストラ　指揮：矢崎彦太郎　コンサートマスター：植木三郎
C.ドビュッシー：交響詩「海」

台北県大豊国民小学校管弦楽団　指揮：江維中
A.ドヴォルザーク：交響曲第9番「新世界」より第4楽章　他

積極的な意見交換がされた「アジアの仲間たち国際会議」

写真で綴る沖縄大会

7月29日(土)

細かなところまで心配りされた運営でした

コンサートマスター植木先生と綿密な打ち合わせを

練習終了後パーカッションのメンバーに指示を出す矢崎先生

レセプションにて、指揮者・コンマス全員で談笑。話題は何!?

レセプションにて、高円宮殿下、坪内JAO顧問、神野JAO会長

沖縄の夏の風物詩「エイサー」に会場は沸きました
激しく躍動的な踊りでした

バスーンメンバーによる飛び入り演奏もありました
曲目はなぜか「トランペット吹きの休日」

ホストオーケストラスタッフの皆さん、おつかれさまです

写真で綴る沖縄大会

7月30日（日）

本番前の練習にも気合が入ります。台北県大豊国民小学校管弦楽団

ユースの舞台練習。指揮者に向ける眼差しも真剣です

スタッフの皆さんの打合せ。本番には細心の注意が必要です。

お弁当のおかずには沖縄料理が必ず入っています
演奏会前だからしっかり食べなきゃ

打楽器メンバーの記念撮影。今回の曲は出番が多くて大変!?（Aオケ）

チェロは美人揃い？少ない人数でもパワーは他のパートに負けません（Aオケ）

飯守先生と三浦先生。本番直前でも余裕の笑みはさすがです

演奏会終了後には指揮者への花束贈呈が行われました
演奏の充実感が伝わる笑顔です

写真で綴る沖縄大会

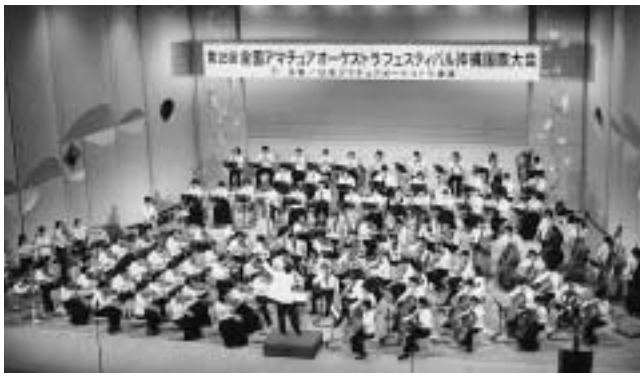
7月30日（日）

Bオケの矢崎先生
的確な指示が演奏者の元へ届きます

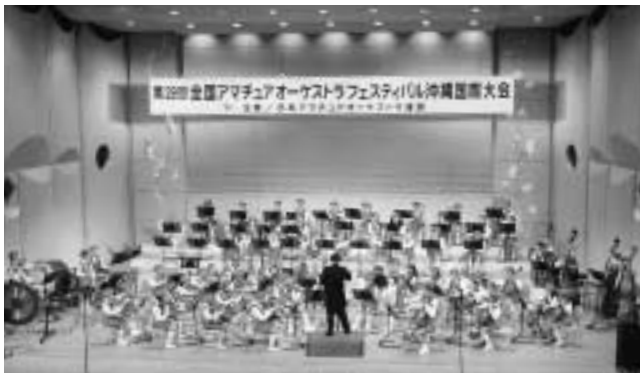
Aオケの飯守先生
楽しい曲を表現するため、タクトが自由に踊っています

ユースの井﨑先生
子供達をスペインへ導くよう情熱的な指揮をされています

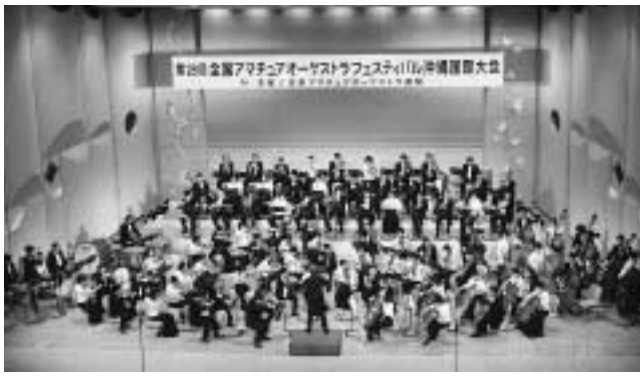
台北小学校の曽志忠先生
子供達の演奏をまとめ上げて一糸乱れぬ演奏をしています



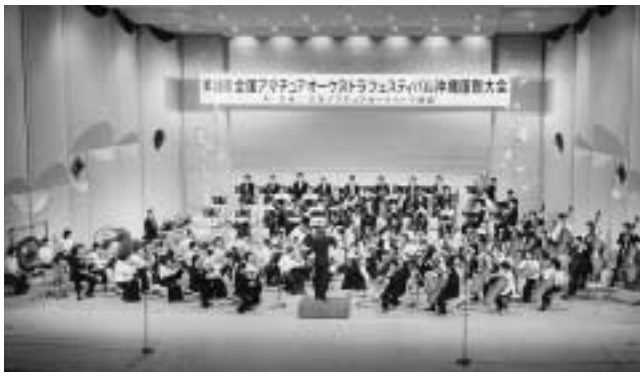
ユースの本番
ソロの多い曲ですが、堂々と演奏し大きな拍手に包まれました



台北県大豊国民小学校管弦楽団
全員お揃いの衣装や小さな演奏者に、客席からは歓声が聞こえました



Aオケ。こちらも難しいソロ続出ですが、
飯守先生の指揮でティルの妖精が舞い降りてきました



Bオケ。静かな始まりから壮大な海を表現
最後にはブラボーの声も。素晴らしい演奏でした

指揮者インタビュー

◆ユースオーケストラ指揮者　井﨑 正浩氏

＊今まで練習した感想（２日目）

昨日今日の天気のようにちょっと元気がないかな？久しぶりに集まってきた仲間同士、緊張もしているのかもしれないね。でもエンジンもかかってきたので少しずつハードルも高くして頑張っていきたいですね。

＊これからのユースのメンバーにメッセージを

髪が金色だったり黒かったり、海外からの参加者もいますよね。でも音楽をやっている時はみんな純粋で素直なんですよね。学んでいくことに対して喜びを感じると思うけれど、今の子供達は知っていても、もっと知ろうという積極性がちょっと少ない感じがするので、知ろうとする欲を出してほしいですね。それと感情を出すことによって音楽は成り立つのだし、もっといろいろな想像力をつけてほしいですね。

◆Ａオーケストラ指揮者　飯守 泰次郎氏

＊今まで練習した感想（２日目）

この曲はドイツの伝説なんですが、タチの悪いイタズラをいっぱいして、最後には捕まってしまう、とっても可愛らしいティルの仕草を表した曲です。で、この曲はいろいろなメロディがたくさん出てきます。でも演奏する方は大変です。これを楽しく演奏するのがポイントなんです。昨日は技術的にも曲が入り組んでて大変だなぁ、と思いましたが、今日はそれが消化できてきたので、遊びながら演奏できるようになってきましたね。お客様にも思わず笑ってしまうような演奏に出来るといいですね。

＊アマチュアプレーヤーにメッセージを

皆さんとっても技術的に上手で、個人個人が一生懸命にやっていていい結果がでると思いますが、これからは聞きあってみんなで楽しく演奏してもらいたいと思います。立派に演奏するのももちろん大切ですが、自分も楽しんでお客さんにも楽しんでもらう心を持ってもらいたいです。みんなが喜んでやっているという気持ちに私もハマってしまって私自身皆さんとご一緒できて幸せに思っています。

◆Ｂオーケストラ指揮者　矢崎 彦太郎氏

＊今まで練習した感想（本番直前）

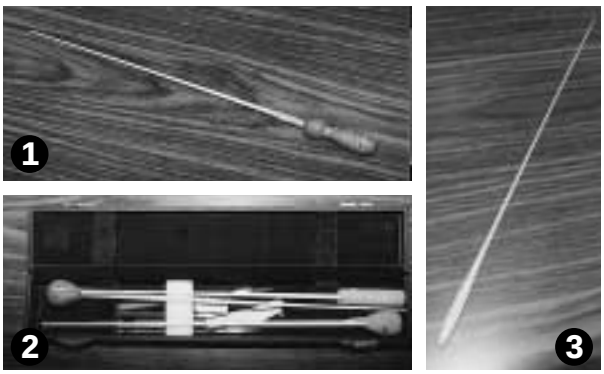
こういう機会に今回音楽を通して会話ができるというのは、とても面白く、反面いつもやっているメンバーではないから、お互いがわからないところでスリルもありましたね。

でも短い時間でここまで仕上がってやるたびによくなって、情熱とそれ以上の技術をもって合わせようとする気持ちが見ていてとても楽しいです。

＊アマチュアプレーヤーにメッセージを

我々から見ればアマチュアプレーヤーの皆さんは羨ましい限りです。音楽を楽しんでいられるのが。でも残念ながらある程度練習をしなくてはならないし、時には苦痛や忍耐などを伴います。その辺が難しいとこかもしれませんがね。しかし音楽をやる上ではプロもアマチュアも差があるわけではないし、プロ用、アマ用と楽譜も分かれているわけではない。音楽でしか食べられない我々とは違う音楽の楽しみ方があるということでも皆さんの方が羨ましかったりします。楽曲を前に音楽を楽しむ気持ちはプロもアマも学生も一緒です。頑張ってください。

私は誰の指揮棒でしょう!?



答えはP16です。

沖縄大会に参加できなかった方
参加したけど何処へも行けなかった方のための

沖縄紀行

― 基層文化としての沖縄文化 ―

JAO編集部では大会期間中ごく短時間の取材を決行、「沖縄文化」の一端をご紹介します。

●シーサー

赤い瓦屋根の上にチョコンと乗っている獅子のようなものがシーサーです。屋根葺き職人さんが屋根を葺きあげた証に作って残す、魔除けだそうです。職人さんの心意気を感じます。家を守るのみならず、ウチナー（沖縄）全体をも守っているようにも思えます。

●斎場御嶽（せーふぁうたき）

御嶽とは神の降る聖所、しかし礼拝所も建っていなければ神体も偶像もありません。大きな岩が合掌している、というより古代信仰で重要な意味をもつ女陰を思わせるその隙間の向こうは女性の胎内ではないでしょうか。初めて沖縄に神が降臨したという久高島が遥か東方にかすんで見えます。かつて王府最高の女神官、ノロの総元締である聞得大君がここで即位式をあげ、代々の琉球王がここから久高島を遥拝したといいます。

参加者インタビュー

Bオケ
左から

豊田楽友協会管弦楽団
2ndVn　細川由紀子さん
静岡フィルハーモニー管弦楽団
2ndVn　赤羽　美穂さん
豊田楽友協会管弦楽団
Va　磯尾　美鈴さん
高知交響楽団
2ndVn　大野　明子さん

沖縄交響楽団のみなさん
左から

Va　慶田盛（けだもり）　貴志子さん
Fg　花　崎　太　郎さん
Vn　やすだ　ゆきこさん
Tp　慶田盛（けだもり）　元さん
Vc　金　城　久美子さん

【参加者の方にお聞きします】

＊何回目の参加ですか？
２回目です。前回の市川と続けての参加です。（細川）

＊矢崎先生の指揮は？
とても見やすくてやさしくて温厚でファンになりました。（赤羽）

＊コンサートマスターは？
細かいところまでよく注意してくださって、わかりやすいです。（磯尾）

＊沖縄は初めて？おいしかった料理は？
初めてです。ゴーヤーは苦かったけれどいろいろな料理法でおいしく食べられました。泡盛も頂きましたがおいしかったです。（大野）

【沖縄交響楽団の方にお聞きします】

＊フェスティバルで大変だったことは？
大きな大会が初めてだったのでノウハウを得るために２,３年かけて他の団を視察したりしたのがちょっと大変でしたね。（Va　慶田盛）

＊エイサーはいつから始められたのですか？
（注：レセプションの時に舞台でエイサーを披露してくれた皆さんのリーダーがこの花崎サンです）
どれくらいかなぁ。もう10年くらい続けてます。実はオケよりあっちの方がメインだったりして!?（花崎）

＊フェスティバルで楽しかったことは？
日頃の練習は首里でやってて、住んでいるところは名護なので練習に１時間半くらいかけて通っているのでなかなかみんなとも話が出来なかったのですが、これで随分とみんなとも話が出来ました。（やすだ）
（片道60kmだそうです……頭が下がります……）

＊参加者の方に沖縄のＰＲを
今回は残念ながら台風ですが､沖縄といったら青い空､青い海、ゴーヤーチャンプル、泡盛、とおいしいものもたくさんあります。独特な歴史や文化も持っているところですのでそういうところをぜひ見ていってほしいですね。沖縄交響楽団と演奏で交流とかもできたらいいですね。（Tp　慶田盛）

＊練習を見た感想を
それぞれ30分くらいしか見ていませんが、人数の多さに圧倒されています。寄せ集めオケであったとしても、一つにまとまっている様子をみてとっても嬉しく思いました。楽しい様子も伺えて、ほんと、いい大会ですねぇ。（金城）

Aオケ　大規 和子さん（習志野フィルハーモニー管弦楽団 1st Vn）、ユースオケ　永井 和人さん（浜松交響楽団 Ob）のお二人にもインタビューにご協力をいただきました。紙面の都合上掲載できずにごめんなさい。

沖縄紀行

●内金城（うちかなぐすく）御嶽（うたき）

首里金城の石畳道は那覇観光の人気スポットですが、ちょっと横道にそれたここ内金城御嶽には観光客はほとんど訪れません。しかしここは奇跡的に戦災を免れ、古い首里が残っている貴重な場所のひとつです。樹齢２００年以上といわれる大アカギの古木が何本も生き残っていて、昼なお暗くひんやりとしています。本土では千年も前に滅んだかもしれない古代が、沖縄では民族のなかで息づいています。聖域の名はこうした場所に似つかわしいと思われます。

石畳

●伊波普猷（いはふゆう）霊園

霊園内の顕彰碑には「おもろと沖縄学の父」と刻まれていました。「彼ほど沖縄を識った人はいない　彼ほど沖縄を愛した人はいない　彼ほど沖縄を憂いた人はいない　彼は識った為めに愛し　愛した為めに憂えた　彼は学者であり愛郷者であり予言者でもあった」沖縄学における伊波の雁行者ともいうべき東恩納寬惇がその碑文を撰され、それは伊波の核心をみごとに押さえていると思います。著書『沖縄歴史物語』を伊波は次のように結んでいます。「どんな政治の下に生活した時、沖縄人は幸福になれるかという問題…（中略）ここにはただ地球上で帝国主義が終わりを告げる時、沖縄人は「にが世」から解放されて「あま世」を楽しみ十分に個性を生かして、世界の文化に貢献することが出来る、との一言を付記して筆を擱く。」この文を書いて一ヶ月後に彼は亡くなりました。沖縄を訪れる時には伊波普猷、そして彼が沈潜した『おもろさうし』にもぜひ触れていただければと思います。そして過去、柳田、折口に代表される多くの民族学者にも深い感動を与えた「沖縄文化」は、日本文化の基層をなしていると言っても過言ではないと思います。

WFAO News

沖縄大会の海外からの個人参加者は、ユース10名、社会人２名。大会前日沖縄入りしたアジア諸国の青少年は「国際交流の集い」で温かい歓迎を受けた。翌28日、開会式に続き、初めてのリハーサル。その合間には「アジアの若い仲間たち国際会議」が行われた。

── アジアの若い仲間たち国際会議概要 ──

日　時：7月28日16：30～18：15
会　場：コンベンションセンター小会議室3･4
参加者：6ヶ国16名の青少年と戸本保子先生、
　　江維中先生（台湾）

〔香　　港〕ノバ・ウォン、マーティン・リー
〔インドネシア〕レベッカ・ウィラケスマ、
　　ペギー・セプトラ、ハニー・スシロワティ
〔韓　　国〕リ･サンウン、リ･ソンジェ、ミン･ドンヒュン
〔シンガポール〕メイ・ラウ
〔台　　湾〕ワン・チュンハオ、リャオ・ダハン、
　　ス・ヤンジェ
〔日　　本〕神山亜紀（中城Jr.）、 大場紀章（岐響Jr.）
　　牧野紘子（豊橋ユース）、和田英恵（市響Jr.）

司会者：佐渡山安信先生（中城Jr.）、森下元康理事長
来　賓：西田克彦氏（NEC）
　　その他多数のオブザーバーの皆さん

議　事：1. 各国の青少年オーケストラ活動に関するレポート発表
　　2. 参加者個人の音楽活動の発表

その後、練習時間、卒業後の進路、学校とオーケストラ活動の両立、今後の抱負などについて質疑応答があった。日本語・英語・中国語の３カ国語が使用され、アジアの会議らしい展開となった。

会議の終わりに、森下理事長から「５つの質問」が宿題として与えられ、これから各参加者はその答えをさがし、また戻ってくることを約束した。

会議はここで終了だが、森下理事長の「あとは若い人たちだけで…」という粋な計らい？で、夕食のお弁当をつつきながら、大場君が中心となって、リラックスした雰囲気の話し合いが続いた。7時からリハーサル再開のため解散。

会議参加者の感想：

神山亜紀

「最初は緊張したけど、だんだん打ち解けてきた。英語の単語を並べて話ができたが、英語力不足のため自分たちの抱える問題解決にまでは至らなかったのが反省点。」

牧野紘子

「意見交換はとても勉強になった。音楽を専門に勉強している人が多いので、自分の音楽、それについての考えをしっかり持っている。これからも、交流を続けていけるよう、メールアドレスを交換した。」

和田英恵

「夕食の時きこえていた沖縄音楽の音階の話で盛り上がったり、ガムランを習っているといったら、感心されたりして嬉しかった。アジアの別々の国で育って、異なる価値観を持って西洋音楽をやってきた私達がひとつになれる音楽の力を感じた。」

大場紀章

「意外と打ち解けて楽しく話ができたが、日本人は積極性に欠けるところがあり、海外参加者の態度を見習いたいと思った。アジア青少年フェスティバルの話に全員一致で賛同してもらえたので、実現させたい。」

会議の準備をしてくれた沖縄のスタッフに感想をきく。「初めての国際会議の準備は大変でしたが、それ以外にも、いろいろな国の人がいるので、文化的な違いからどんなことが失礼にあたるのかわからず、苦労しました。（名幸真喜子）」

7月29日の夕方、高円宮殿下をお迎えしてのレセプションの席上、前日まとまった「共同メッセージ」を全員で発表。「今回の会議を通じて、アジアの青少年たちがオーケストラ活動を通じて深い友情で結ばれるよう、アジア青少年フェスティバル開催を各国の大人の人たちの協力を得て実現したい。」という内容のメッセージに16名全員が署名した。

レセプションでは韓国の青年２人のまわりに女の子たちが集まって盛り上がっていたのがひときわ目立っていた。沖縄青少年オーケストラのメンバーによると「名前や楽器名やいろいろな単語を日本語と韓国語で教えあった」とのこと。一番人気のドンヒュン君は女の子たちの名前を見事に覚えていた！文化交流はレセプションが終わってからも続き、ヴィオラのメンバー有志は韓国とシンガポールを交え、国際通りへ出かけたり、ホテルへ戻ってからも日本や韓国のゲームをして楽しんだらしい。

フェスティバルの演奏前はあまり緊張した様子もなく、みな笑顔がみられた。終了後、ホテルへのバスが出るまでの短い間に、あちらこちらで、最後の記念撮影や、住所交換をして名残を惜しんでいたのが印象的だった。また会えるといいね。

── 海外参加者からのメッセージ ──

両角敏子（ドイツ）

日本のオーケストラの皆さんは、家でよく練習してきているようで感心しました。ドイツでは、（私を含め）たいていは難しいところをいかにごまかすかを練習してきます。何から何まで行き届いた大会運営には感激しました。ありがとうございました。

ゲルハルト・クラウッター（ドイツ）

準備の良さ、親切ですぐ助けてくれた人たち、よい音楽と、すばらしい指揮者飯守氏、そしてたくさんのすぐれた音楽家達とこうして一緒に演奏する事ができたのは素晴らしい体験です。日本と、日本の人たちを私は一生忘れないでしょう。

ノバ・ウォン（香港）

アジアの友人たちと演奏できてうれしかった。温かいもてなし、準備の良さ、親切な人たち…すべてに感激しました。沖縄の文化をはじめ、多くのことを学びました。

マーティン・リー（香港）

指揮者、演奏者、主催者、スタッフ、すべてがすばらしかった。日本語はわからないけれど友達がたくさんできた。もっとフェスティバル期間が長かったら、いろいろ一緒にできてよかったのに。

レベッカ・ウィラケスマ（インドネシア）

楽しいフェスティバルでした。ご招待に感謝します。みんな親切で温かく迎えてくれました。観光する時間がなかったのが、残念です。

ペギー・セプトラ（インドネシア）

日本やアジア各国のみんなと知り合えてよかった。沖縄でのリハーサル、フェスティバルの一分一秒まで楽しみました。もっと時間があるとよかったけれど、大切なのはみんなに会えて演奏できたこと。

ハニー・スシロワティ（インドネシア）

日本やアジアのみんなと一緒に演奏する機会を与えていただいて感謝しています。演奏技術も向上したし、協力して美しい音楽を奏でるという素晴らしい体験ができました。

リ・サンウン（韓国）

フェスティバルに参加できたことを誇りに思います。楽しく演奏できました。みなさんのご親切は忘れません。

リ・ソンジェ（韓国）

フェスティバルに参加できてとても嬉しかった。また日本に戻って来たい。日本も日本のみなさんも大好きです。

ミン・ドンヒュン（韓国）

英語は共通語といいますが、音楽こそが世界の共通語だと思います。またみんなと音楽という共通語で話し合う機会があることを願っています。

メイ・ラウ（シンガポール）

とても運営がうまくいっていたと思います。もう少し期間が長ければ、レパートリーを増やしたり、もっとコンサートができたり、お互いに学ぶ機会も増えたのではないでしょうか。いろいろな国の人々と知り合えて嬉しかったです。ありがとうございました。

紙面の都合で編集してありますが、メッセージには感謝の言葉が溢れていました。直接話す機会のあった人も、なかった人も、来年の名古屋大会には、さらに多くの海外参加者を迎える予定です。英語でもドイツ語でもスペイン語でも、今から準備すれば違います。今回の会議では海外参加者には「英語のレポートを提出。発表は英語で。」と依頼していたのですが、これからは日本側も自分の言葉で伝えられるよう、頑張っていきましょう。海外参加者はフライトの都合でフェスティバル前後の滞在を何泊か自費で支払うことがあります。経済的に余裕のない人も、日本の生活を体験したい人もいます。もし来年「うちへ泊めてもいいよ」という方がありましたら、WFAO事務局までご連絡下さい(連絡先はJAOと同じ)。メールはwfao@sala.or.jpです。

16名が「第4回BDLO研修旅行」に参加

毎年恒例となっているドイツアマチュアオーケストラ連盟（＝BDLO）との交流事業、「第４回BDLO研修旅行」が、去る６月９日からドイツ・ヴァイカスハイムにて行われた。今回の研修曲はブラームスの交響曲第１番である。参加者の中には２回目と言う方も何人かいて、ドイツの人たちと、より一層の交流が出来たようである。キャンプ終了後、ブタペストやウィーンの旅を満喫し、皆さん元気で帰国した。参加者のひとこと感想記をどうぞ。

2000年BDLO研修演奏会体験記

石川 八谷（ヴィオラ）

昨年経験した初参加の興奮が未だどこか頭の片隅に残っているままに二度目のヴァイカスハイム。昨年と打って変わって真夏のような暑さだ。研修演奏会のホステス役をされるヴィオラのトップ、ポイカーホルマンさんにそのことを話したら「東京みたいね」といわれた。 彼女は昨年JAO市川大会に参加しているので日本の猛暑をご存知だ。言外の口調に「あれよりはましよ」を感じ、つい笑ってしまう。トゥッテイの練習と成果を発表する演奏会場は美しいバロック様式の城庭園近くにあるガルテンハウス（園亭）。玉のように吹き出る汗を拭いながら熱心に指導されるブロイメッケ教授の下で、今までとは一味違うブラームスの交響曲一番を体験する。この交響曲は全体がドイツの田園自然のように広大なうねり。それに相応しい音質・音色が大事であることが実感として分かってくる。

出発前ポイカーホルマンさんに「時間と場所がありますならご一緒に室内楽を」と手紙に書いた。お忙しいのに私のためにメンバーを募り、トゥッテイの練習後城内の一室で弦楽四重奏をすることになる。ファーストヴァイオリンがプルシキーナさんでチェロはガルペリンさん。お二人は今回のトレーナー役でプロの方である。小塩さんから借りた楽器でセカンドヴァイオリンを務める。先ず幸崎卓也編曲の「日本の四季」。この人達と演奏すると「花」など元来日本の歌４曲が小気味良いモダンな器楽曲に変わる。続いてベートーヴェン作品18の１を演奏し弦楽四重奏の醍醐味を満喫。その興奮も醒めない次の夜、今度はヴィオラのナーゲルさんから弦楽四重奏の誘い。一緒に誘われた渡部さんが遠慮なさるので私がファーストヴァイオリンを弾くことになる。チェロはオランダのヘッキングさん。とても気さくな方で、昨年もこの地で一緒に飲みながら語り合い、またこの５月、日蘭交流400年周年記念合同演奏会のため来日した時、新座市でお会いしたご婦人。願ってもないメンバー。初めは「イエスタディ」等のビートルズ・コレクション。以外に難しい。ナーゲルさんが次に取り出した楽譜はモーツァルトの「アヴェ・ヴェルム・コルプス」。弾き始めから心は感動で震え、至福の時が流れる。 400年以上も歴史がある古城で２夜に渡っての四重奏。一人として聴いた人を確認していないけれど、あのバロック時代の彫像達は聞き耳を側立てていたに違いないとたわい無い想いに耽っている。

19歳、初めての海外

向後 崇雄（バスーン）

今回初めての参加と初めての海外と言うことでとてもいい勉強になりました。

12時間かけてドイツへ到着。ドイツの印象は斬新で清潔。日本のうるさい空港と違って物静か。ヴァイカスハイムでの練習と本番。ドイツの乾燥した中では楽器が響きました。

ハンガリーは19歳のバースデーを迎えることが出来て、みんなに祝ってもらったことは最高のプレゼントでした。地下鉄にも乗り、路面電車にも乗りその地の人々の生活に触れられた気がします。

ウィーンではバスで国境を越えました。一番楽しみにしていたウィーン国立歌劇場でのオペラとムジークフェラインザールでのウィーンフィル。オーケストラとは思えない音でショックを受けました。帰りにはあのコンサートマスターのキュッヒル氏と写真を激写。ものすごく興奮しました。

ファゴットパートのリヒトさんとはまた絶対に来ると約束したのでまた参加します！今回お世話になったメンバーの方々やBDLOの方に心からお礼を申し上げます。ありがとうございました。

ドイツ人と一緒にブラームスを弾く

小塩 樹三郎（ヴァイオリン）

私は、去年も参加して大変楽しくしかも音楽的に勉強にもなったので、今年も参加させていただいた。今年の曲目はブラームスの１番、私の好きな曲の一つでドイツ人がどう表現するかが興味があった。去年はチャイコフスキーの一番で、皆は「暗い曲ね」と言っていたが、今年は違った。皆生き生きと練習をしていた。何故か指揮者のドイツ語も今年は分かりやすかった。ブラームスの１番が段々出来上がってくる。自国の音楽だったせいかもしれないが、皆も自信をもって弾いているように感じられた。その過程がなんともなく楽しかった。最後の日の演奏会は、自分が参加していながら言いにくいが、素晴らしいブラームスが演奏出来たと思った。観客として聴いていた山元さんに聞いたら、ドイツ人の血が騒いで素晴らしい演奏だったと話していた。私は、今回の経験を通してドイツの作曲家の曲を取り上げてもらいたかったのだが、来年はショスタコーヴィッチの６番だそうである。ちょっとがっかりしたのだが、帰ってきてからCDとスコアを買ってきて聴いてみた。正直言ってびっくりした。社会主義的な音楽ではなく、西洋風な美しい曲であった。来年も参加しようと心に決めたのであった。

おいしいビールと音楽と

渡部 葉子（ヴァイオリン）

２回目の参加になりますが、今回は本当に最高の演奏旅行でした。BDLOの参加者も日本人慣れしたのか？以前より、より楽しく交流できたように思います。

ブラームスの演奏もドイツ人魂が感じられ、一緒に演奏できたことの幸せを感じました。国を越えて、音楽とビールをまじえて過ごしたあのヴァイカスハイムの空気は忘れられない体験です。

ヨーロッパのブラームス

岡本 洵子（ヴァイオリン）

すてきなお城での、練習と演奏会はとても楽しい５日間でした。

ドイツでの本場のブラームスに堪能しました。これまで私が日本で経験した音楽とはあまりにも違うのです。本当に自然に流れていくのです。このようなブラームスにめぐ

りあえ、今回参加した意義を充分に感じています。
後半の研修の中で、ウィーン楽友協会でウィーンフィルのブラームスのドッペルコンチェルトを聴くことが出来ました。またしても重厚な中にも、こんなに美しいブラームスがあるのか！と驚かされました。このホールと、ウィーンフィルと、あの音は口には言い表すことの出来ない、言うに言われぬ関係にあるようです。
ハンガリーにも行けましたし、あの勇壮な建築物など、とても良い研修旅行でした。有難うございました。

第４回BDLO研修旅行に参加して

佐藤 徹（ホルン）

今回は第１回目の参加者が多く、知り合いも多かったし、ヴァイカスハイム以外は何度か行った事のある所だったので、楽しく旅行が出来ました。又、ドイツの参加者或いは指導者の方も第１回目と同じだったし、ブラームスも何度か演奏している曲だったので楽でした。
第１回目がきっかけで自分なりにドイツ語を勉強しようと頑張り、今回その成果が出るのか楽しみでしたが、なかなか難しいですね、言葉は？私のカタコトのそれで、トゥルガイ氏（ホルン講師）が何度もすっとんきょうな顔をしていた。少しハメをはずし過ぎた様だが、ビールをたくさん飲んだ次の日から私はなぜかHimmel（ヒンメル＝天国）と呼ばれています。（関係者の皆様には大変ご迷惑をおかけしました。お詫び申し上げます）
何にしても楽しい10日間でした。横田団長をはじめ、同行した皆様、本当にお世話になりました。再びこの様な機会がありましたら参加させていただきたいと思います。
ありがとうございました。

ブタペスト寸景

角川 總一（ヴァイオリン）

６月12日、ヴァイカスハイムでの練習ならびにミニチュア演奏会を無事終えてブタペスト入り。13日、ブタペスト散策かたがたリスト音楽院に立ち寄る。何と音楽院大ホールではライブコンサートの真っ最中。これはラッキー。「ラ・プレリュード」全曲をビデオカメラに収めることができました。日本の音大だととてもこんなことは許してくれないだろうな。
今度はチェロをかかえてどこへ行こうかしら？

ドイツ人のブラームス

岡本 誠司（ヴァイオリン）

BDLOの研修会は二度目ですが、ヴァイカスハイムへは初めての参加でした。今回の課題曲は四回目にして初めて、ドイツローマン派のブラームスの第一交響曲でした。（従来は①展覧会の絵　②フランクの交響曲　③チャイコフスキーの第一交響曲）
私の関心事は『ドイツ人による本場のブラームスは、どのようなものか』でした。今回ご指導頂いた指揮者は某音大の教授でBloemekeさん、コンマスは第１回目のハンメルブルグの時と同じNeubertさんでした。Neubertさんは顔馴染でしたし、彼もすぐに私を思い出してくれました。
私は今回図らずも終始コンマスの隣に坐らされて、直接具体的な指導を受けました。譜めくりの仕方をはじめ、Vn1のパート練習ではボウイングは基より、音程は特に厳しくチェックされましたし、フィンガリングについても随所で今まで思いもよらない指使いを教わりました。
合奏の練習中では、とくに指揮者の権威は絶大で、指揮者が話しているときは静かに集中して聞くよう注意されました。…ドイツ語ばかりで全く分かりませんが…。
さてドイツ人のブラームスは一言で言えば当然の事ながら、予想以上に楽譜に忠実で、常にインテンポで、音楽がきれいに流れることを大切にするように教えられました。楽譜に書いてある以外に余計な味つけはせず、ブラームスだからとりわけ無理に重みをつけるのではなく、重厚さは和声と音色で自然に出なければいけないと感じた次第です。
数日後ウィーンのムジークフェラインでウィーンフィルの特別演奏会を聞きました。オイリアンテ序曲、ブラームスのドッペルコンチェルト、シューマンの二番というプログラムで、素晴らしい最高の名演でした。やはりウィーンフィルはあの素晴らしい響きのホールと聴衆の中で、あれだけノリのよい演奏が出来るのだと痛感しました。
今回の研修は大変有意義で素晴らしい体験をすることが出来ました。これはBDLOとJAOの関係者の方々のご配慮のおかげと感謝いたします。
ドイツの友人が更に増えました。それにしても毎回思うことですが、もう少しドイツ語が分かるように（聞くだけでも）なりたいものです。

BDLOの研修に参加して

谷口 綾（ホルン）

私はこの６月の研修旅行に参加して、数多くの刺激を受け、たくさんの貴重な経験ができました。私がこの旅行に参加したきっかけは、人からの勧めと自分を磨く為。そして旅が決定してからの私はもう毎日ワクワクして、その日が来るのを待ち望んでいました。が、その反面全く１人で参加した私には、期待以上の不安もありました。この大きな不安を帰国した時に大きな満足度と充実感に変えたのは「人との出会い」でした。ヨーロッパの美しい景色に囲まれ、本当に素晴らしい人達と演奏、旅行することができたと思います。ヴァイカスハイムのキャンプでは「音楽に国境はない」ことを体で感じました。言葉が通じなくても音楽で会話することができるのだということを…。その他、現地アシスタントの堤さんや両角さんとの出会いで、本当に人の温かさに触れることができ、より素晴らしいキャンプになったのだと思います。そして何より３ヶ国を共に旅した今回の参加メンバーの皆様には、本当に色々な場面でお世話になり感謝の気持ちでいっぱいです。この皆様のおかげで、たくさんの魅力的な建造物や街並、食べ物、そしてもちろん音楽に出会うことができました。
私にとって今回の旅で知り合った人々との出会いは『宝物』です。この『宝物』のおかげで私は始終笑顔で旅することができたのだと思います。いつか又、皆様と素敵な旅ができることを夢見て、これからも音楽に触れ合っていきたいと思います。

西春フィルハーモニー・オーケストラ ◆ Nishiharu Philharmonic Orchestra ◆

人口3万3千余人の小さな町「西春町（にしはるちょう）」にオーケストラが誕生したのは今から7年前の平成5年4月でした。町在住の音楽家、地元の芸大のバックアップ、町のコンサートホールの完成など幸先よいスタートを切りました。ところが「初心者大歓迎」で団員募集したためか第1回定期演奏会はいろんな意味で町中の注目の的となりました。「入り口でお客さんに耳栓を配ろうか」などと言う始末。演奏も未完成なら演奏曲目も「未完成」でした。8年目に入ろうとする現在もなお、「無謀」、「恐いもの知らず」の性格は全然直っておりません。ラヴェル『ボレロ』、ムソルグスキー『展覧会の絵』、ハイドン『驚愕』などものともせず平然とやってしまいました。後悔とか反省とかデリケートな趣を持たない我がオーケストラに惜しみない拍手を送る西春町の聴衆の寛大さと我慢強さの中に文化を育む秘訣が隠されているのかも知れません。

それから、突然に、ホントに突然に、7月14日の夜、我々の練習日にウィーンのグスタフ・マーラー四重奏団の4氏とファゴットの太田茂氏、フルートの大田嘉子さんが訪れ、『田園』を一緒に練習をしましたが、隣に座られた人達は緊張の余り脱水症状（!?）になっておりました。小学生が大学入試を受けたようで、カルチュアーショックからまだ立ち直らないでおります。再来を約束してお帰りになりましたので、又、新たな夢が花開きそうで一段と練習に身が入っているようです。

コミュニティー・オーケストラである西春フィルはビフィズス菌とか乳酸菌とか言われております。なぜか？って、それは、我々はいつも町（腸）内で活動しているからです。

小さな町の小さなオーケストラ、そこにもモーツァルトやベートーヴェンの音楽が今日も鳴り響いています。

筆担当：広報係のピチギャルズ

【最近の演奏会】

第10回定期演奏会演奏会　9月3日（日）
　指揮：竹本義明　ホルン奏者：石塚久恵
　アルヴェーン：スウェーデン狂詩曲　No.1「夏至の徹夜祭」
　R.シュトラウス：ホルン協奏曲　No.1
　ベートーヴェン：交響曲　No.6「田園」

西春町音楽祭参加　12月10日（日）
　指揮：竹本義明
　ヴァイオリン：ニーナ・カルマン、天野千恵
　J.S.バッハ：二つのヴァイオリンのためのコンチェルト

第11回定期演奏会　平成13年3月4日（日）
　指揮：竹本義明
　グリーク：「ペール・ギュント」組曲　No.1＆No.2
　カリンニコフ：交響曲　No.1

第12回定期演奏会　平成13年9月2日（日）
　指揮：古谷誠一　ピアノ：山田敏裕
　ムソルグスキー：禿げ山の一夜
　グリーク：ピアノ協奏曲
　チャイコフスキー：交響曲　No.6「悲愴」

G.マーラー四重奏団、太田茂氏（Fg）、太田嘉子（Fl）、竹本義明指揮でベートーヴェン「田園」を合同練習

日本全国アマオケ街道
私の町 私のオケ
シリーズ第六回

Miyazaki Junior Orchestra
MJO 35 宮崎ジュニア・オーケストラ

●MJOとは…？

宮崎ジュニア・オーケストラは1965年に創立されました。以来35年にわたり、年1回の定期演奏会をはじめ、夏の地方公演、夏の強化合宿などを中心に幅広く活動してきました。夏の地方公演では県内60数ヶ所の小学校や中学校などを回ってきました。

メンバーは小学生、中学生、高校生で、現在70名が活動しています。練習は毎週土曜日に2時間行っています。

昨年は定期演奏会が35回目となり、記念演奏会として現田茂夫氏を指揮にお迎えしてドヴォルザークの交響曲第8番や「くるみ割り人形」などを演奏しました。今年は創立35周年を記念して、10月9日に宮崎国際室内楽音楽祭の音楽監督でいらっしゃる徳永二男氏をお迎えしての特別演奏会を行い、ベートーヴェンの「英雄」やモーツァルトのヴァイオリン協奏曲第4番、バッハの2つのヴァイオリンのための協奏曲などを演奏しました。

●第17・18回TYOC宮崎で開催!!

第17・18回TYOCは宮崎で開催されます。南国宮崎に皆さんの若い力を集結させ、熱い音楽をくり広げましょう!!

たくさんの参加を心からお待ちしています。

宮崎ジュニアオーケストラ

〒880-2105 宮崎市大塚台西 3-51-22　事務局長　森山 靖之
TEL＆FAX：0985-47-3723　E-mail：mjo@ma8.seikyou.ne.jp
ホームページ：http://ha8.seikyou.ne.jp/home/mjo/

Youth Journal
ユース　ジャーナル　vol.33

〔ＪＹＪ編集長〕
〒441-8029 愛知県豊橋市羽根井本町61-2
大木　愛子
電話(0532)31-8190
〔ＪＹＪ担当〕
〒441-8015 豊橋市築地町43-1
高井　規行
電話(0532)31-9879

―南国に力強い音色が響いた―

めんそ～れ、沖縄！

第28回全国アマチュアオーケストラフェスティバル沖縄国際大会

【第１日目　７月28日】開会式・総合練習

沖縄コンベンションセンター・劇場棟大ホールで、開会式が行われました。

今回ＪＡＯユースオーケストラ部門には、アジアの若い仲間たち（10名程）も参加。ＪＡＯユースオーケストラ、社会人オーケストラＡ・Ｂ、そして、台北県大豊国民小学校管弦楽団の皆さんが一同に会してセレモニーが盛大に行われました。

沖縄県青少年合同オーケストラによる歓迎演奏があり、「21世紀の森」「平和への憧憬」「芭蕉布」の３曲が披露されました。ハイビスカス等がカラフルに描かれたアロハシャツで登場した彼らは、素晴らしい演奏と共に沖縄の明るい雰囲気で会場を満たし、開会式を一層盛り上げました。

その後、参加団の紹介がありました。各団ごとに名前を呼ばれ、立って挨拶をします。さわやかな笑顔で手を振る団もいました。TYOCの仲間たちとも再会し、懐かしい思いがこみ上げました。一つ残念だったのは、台風の影響で開会式に間に合わなかった団があったことです。

開会式が終わると、劇場棟を離れ会議棟大会議室でさっそく初顔合わせ。そこで諸注意を受けました。

そして練習開始です。井﨑先生の指揮のもと「スペイン奇想曲」の練習が始まりました。先生は英語で指示を出したり、いろんな冗談も言ったりして、おもしろかったです。

演奏の方はというと、タイミングが難しく入りそびれたり、なんとか最後まで通したもののソロは穴だらけ。その後弦楽器と管楽器に分かれて、井﨑先生に見ていただきました。

夕食後は本番のホールで総合練習です。

あっという間に時間が経ち１日目が終了しました。

◆アジア青少年国際会議国際会議

アジアの若い仲間たちが集まり、アジア青少年国際会議が開かれ、それぞれの国のオーケストラ事情、抱えている問題や対策などを話し合いました。皆とても積極的で、音楽に対する自分の考えを熱く語っているのが印象的でした。

◆　◆　◆

今回のフェスティバルで一番思い出に残ったことは、アジアの仲間とたくさん交流できたことです。私はみんなより１日早く沖縄に入り、その夜歓迎レセプションに参加しました。普段、外国の人と話す機会のない私には、「Hello」という最初の一言をだす勇気が大切だと思いました。沖縄料理を食べながらお互いのことを話し合いました。

そして次の日にはアジア青少年国際会議に出席し、それぞれの国のオーケストラの現状、音楽と受験の両立、将来のことを話し合いました。香港やシンガポールの仲間は積極的で、音楽に対してしっかり自分の考えを持っていました。私にとって楽器を演奏することは趣味の段階ですが、それにしても生半可な自分の姿勢を恥ずかしく思いました。

現在はＥメールでやりとりをしています。折角出会えたのだから、更に広く音楽の輪が広がるようにインターネットも利用していくべきです。

みなさん、キャンプなどで交換する名刺には、Ｅメールアドレスを書いて、どんどん海外の仲間を増やし（１秒でつながります!!）、アマオケ青少年ネットワークを広げていきましょう。Music knows no borders!

（豊橋交響楽団　牧野紘子）

◆　◆　◆

沖縄での大会は僕にとって、大きなカルチャーショックでした。アジアからの海外参加者と共にすごした三日間の練習を通して、近くて遠い国であったアジアに対する認識を新たにする事が出来ました。どの参加者も、とてもしっかりとした考え方を持ち、その考え方に驚かされました。民族は違うけれども、音楽を愛するという気持ちによって、心の交流を図る事が出来たと思います。

最後にこのような機会を与えてくださった先生方、ありがとうございました。

（岐響ジュニア　湊口信悟）

◆　◆　◆

高円宮殿下を囲んでアジアの仲間たちと

【第２日目　７月29日】総合練習

外はあいにくの雨つづき。しかし、それにも負けずホール内では明日の本番を控えて、熱気あふれる練習が繰り広げられています。昨日のセクション練習の成果でしょうか、少しずつ曲が形になり、スペインの太陽が見えてくるようになりました。ですがまだ完成には至らず、見え始めた太陽は台風の雲に身を隠すこともしばしば。

井﨑先生がソリストを集め、特別レッスンをしてくれました。先生の指揮とソリストたちの息が合ったような気がし、それぞれに何かすばらしいコツをつかむことができました。

◆　◆　◆

私は７月28日からの沖縄フェスティバルでユースオーケストラのコンサートマスターをやらさせていただきました。ソロが何ヶ所もある重大な役!!森下先生や三浦先生をはじめ色々な方に御指導いただき、自分なりに一生懸命練習しましたが、沖縄へ出発する前からソロのことを考えると胸がドキドキでした。本番の演奏が終わった後、私にはヴァイオリンを演奏することに前向きな気持ちが残り、とても良い機会を与えてくださったことに感謝しています。

（豊橋ユース　立花麻里絵）

◆　◆　◆

「沖縄に行きたい！」というのが今回のフェスティバル参加への率直な理由でした。

私は昨年の市川大会が初参加で、それまで“フェスティバル”というものは縁の遠い存在だったため、昨年はその

あまりの編成の大きさにすっかり舞い上がってしまい、その中の一員であるという実感がなかなか湧いてこなかったことを覚えています。

今年も、ユースは総勢100人を越える編成となりました。演奏曲は「スペイン奇想曲」。その名の通り情熱的なスペインの曲調に、我々の、若さゆえにとどまることなくわき上がる熱い気迫が、空間いっぱいにマッチし、練習室は常に熱い熱い空気に覆われていました。

しかし、指揮者の井﨑正浩先生は、より高度なことを求められました。「熱くなってはいけない」。井﨑先生は、旋律楽器よりもむしろ伴奏楽器の、和声の変化や強弱により重点を置かれていたように感じました。また、Tuttiに際してもとくに「熱くなりすぎないで」と注意されていました。

普段ならきっと情熱で乗りきってしまったでしょう。それに、もし井﨑先生ではなくて他の指揮者の先生だったら、「若いから情熱的に！」と言ったかもしれません。

今回の大会で私たちは少し“大人の音色”を勉強させていただきました。そしてこの機会に、スペイン音楽に欠かせないカスタネットを担当させていただいたことをとても光栄に思っています。

最後になりましたが、今回この曲を演奏するにあたって、コンサートマスターの立花麻里絵さんをはじめ、難解なソロに挑戦された皆さんに心から拍手をお贈りします。

（市響ジュニア　和田英恵）

そして、次のTYOCへ向かって…

第17回TYOC宮崎大会

— 2001 TYOC in Miyazaki REPORT —

7月末、沖縄でフェスティバルが開催されました。沖縄と言えば、青い空に青い海と言いたいところですが、残念ながら、現地は台風で大荒れ。とても、沖縄の気分を味わうどころではなく、私たちはゴーヤーチャンプル入り弁当を食べつつ、会場に向かったのでした。今回の指揮は、2年前の日本青少年交響楽団のヨーロッパツアーにも参加していただいた井﨑先生。課題曲がスペイン奇想曲ということもあり、スペインでの様々な思い出が呼び起こされるのでした。総合練習中、井﨑先生がスペインでのツアーの話題に触れた時、熱く乾いたスペインの空気を感じたような気がしました。ああ、本当に私はスペインに行ったのだ。今回のユース部門には、アジアからの参加者が12名。すぐに立ちはだかった言葉の壁。しかし、英語を母国語としない者どうしというわけか、はたまた、同じアジア人としての親近感からか、いやいや、これこそが音楽の力、彼らは意外にも早く私たちに溶け込んできたのでした。いやはや日本人よりも日本人らしい顔立ちだったりして、誰が海外参加者なのかわからないほど。

海外参加者と私を含めた日本人代表3名とで初日の夜に〜アジアの仲間たち〜と題して、ちょっとした話し合いの場を持ちました。そこでは、アジア各国のアマオケの現状について、抱える問題や対策、それぞれの希望や夢について熱く語り合いました。司会をする日本人側が語学面でも考え方でもたじたじする場面もありましたが…。そして、最後に全会一致で「アジア青少年オーケストラフェスティバル」を開催する事を宣言して会は終わり、翌日のレセプションにて、みんなの前で発表いたしました。

本番は初日から心配されていたソロもきまり、達成感に包まれながら終了しました。

空き時間に街に繰り出してお土産を買いに行ったり、部屋で遊んだ韓国の二人組とシンガポールの女の子とは別れの時などは涙を流して抱き合い、忘れがたい思い出となっただけでなく、かけがえのない友情を育むことができました。今でも国際電話やE-mailなどで連絡を取り合い、お互いの活動や日常などについて話をしています。

このように、私にとっては海外参加者との共演と交流が印象強かった沖縄でした。

そんな思い出に浸っているまもなく、8月中旬、私たち宮崎大会運営委員（とりあえず9人）は、来る2001年3月に行われる、第17回TYOCの下見をすべく、会場となる宮崎に行ってまいりました。第18回の記念演奏会の会場でも練習会場の宮崎県立芸術劇場コンサートホールはまるで日本ではないような豪華さ。それもそのはず、ウィーンの「ムジークフェラインザール」をモデルに作られたそうで。ステージ後方には国産最大のパイプオルガンをたたえ、ケヤキ、ミズメザクラを用いた内装はどことなく温かで、独特の雰囲気をかもし出していました。残響も2秒と、なかなかの響きで、非常に楽しみです。ただし、練習で使うのにはちょっともったいない気が…。ここで本番を迎えられると思うと限りない幸せを感じるのでした。

宿泊施設はシーガイアの中にあるコテージヒムカというところです。8人部屋とはいえ、あまりにもリッチな内装は、これまでのキャンプのイメージを払拭してしまいそうなほどです。また、施設内の連絡バスでオーシャンドームにも行けます。中を一応見学しましたが、外は曇りで涼しいのにドームの中は汗が止まらないほど暑い。暖房が入っているらしく、冬でもこの温度なのだとか。凄い施設だ。キャンプとは関係ないかな。

青少年オーケストラ委員会の大人の方々と、キャンプ運営委員会の初顔合わせの話し合いもうまくいき、これからますます良い協力体制をとり、より有意義なキャンプを作っていけると確信しました。私たちは宿泊施設に戻り、夜遅くまで次回のキャンプについて語り合いました。沖縄に来てもらった海外参加者も呼ぼうという話も出ました。

次の宮崎でのTYOCは、色々な意味で新しいTYOCになるかもしれません。いつまでもTYOCが魅力的で刺激的でなおかつ有意義であるために、私たちは話し合いを続けていきたいと思っています。そして、これだけ幸せな環境の中でキャンプに参加できる事に、ただひたすら感謝するしかないと思うのでした。

（岐響ジュニア　TYOC宮崎大会運営委員長　大場紀章）

TOPICS　◆編集部だより

TOPICS 1 戦後55年

沖縄国際大会にて高円宮殿下はじめJAO役員の方々「ひめゆりの塔」「国立沖縄戦没者墓苑」に献花される

去る沖縄国際大会期間中の7月29日（土）午前、JAO総裁の高円宮殿下はじめ木田宏理事、坪内嘉雄顧問、神野信郎会長が「ひめゆりの塔」「国立沖縄戦没者墓苑」を訪ねられ献花されました。「ひめゆりの塔」は説明するまでもなく、沖縄戦に動員された女師・一高女の少女たちの慰霊塔です。

献花のあと隣接する「ひめゆり平和祈念資料館」を見学されました。奇跡的に生延びられた証言員の方々による、沖縄戦の実相を伝える迫真の証言に落涙を禁じ得ませんでした。

続いて一行は「国立沖縄戦没者墓苑」を訪れ献花をされました。ここには「魂魄の塔」から分骨された3万5千余柱という無名戦死たちが安置されています。

この地は沖縄戦の激戦地であり、日本軍も住民も追いつめられて逃げ場を失い、多くの方々が犠牲になりました。戦後、真和志村民が収容移住を許された所で村民及び地域住民の協力によって、いたる所に散乱していた遺骨を集めて祀ったのが「魂魄の塔」です。

毎年6月23日の慰霊祭の日には、土まんじゅうに寄り添うように敷物をしき、幾組もの家族連れがお弁当を広げているそうです。おそらく戦争で亡くなったあの人にできるだけ寄り添ってあげて、一緒においしいものを食べたいと思うからでしょう。これこそ沖縄人が自らの手で建てた本当の慰霊塔のように思われました。

魂魄の塔

TOPICS 2 特別企画　沖縄みやげプレゼント

沖縄大会に参加できなかった方に少しでも沖縄気分を味わっていただけるように、沖縄みやげをナント10名様にドーンとプレゼントします。

ご希望の方は官製はがきに住所、氏名、電話、団体名、楽器名、機関紙JAOの感想や意見、編集部への励まし等をご記入の上、

〒441-8028 豊橋市立花町46 光陽ビル3F
(社)日本アマチュアオーケストラ連盟内
「ガッツだJAO編集部　おみやげちょーだい」係

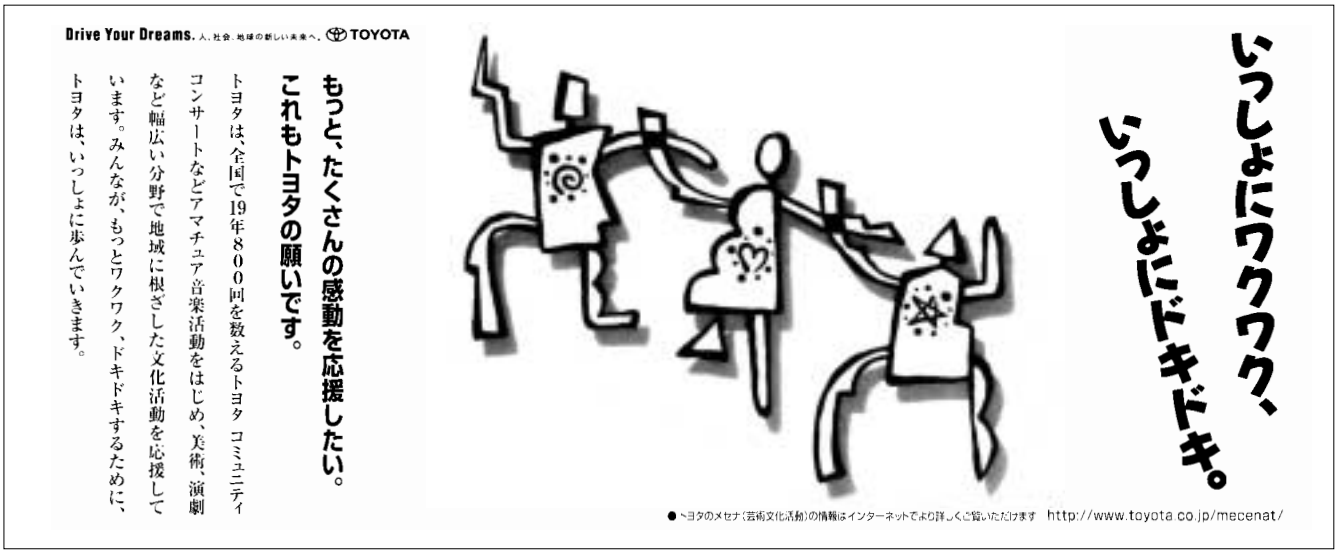
までどしどしご応募ください。
締め切りは11月30日消印有効です。

なお、発表は発送をもってかえさせていただきますので、ご了承ください。

6Pの答え

1…矢崎先生
2…井﨑先生
3…飯守先生

事務局通信

▼日本の南端の地、沖縄で開催された「第28回全国アマチュアオーケストラフェスティバル沖縄国際大会」が大きな成果を残し閉会した。運営に当たられた與儀幸英委員長をはじめとする沖縄交響楽団、中城ジュニア・オーケストラ等の実行委員の皆様に、改めてお礼を申し上げたい。詳しい内容は本文の特集にあるとおりであるが、それにしても天気には参った。大会前の水曜日に台風が接近し、（沖縄の方には失礼だが）「よし、これで大会中は台風の心配は無いな」と。ところがその台風がフェスティバル期間中まで居座るとは。この台風6号、よっぽど音楽ファンなのか、暇なのか。

▼酷暑の夏が終わり、少し涼しくなったと思ったら、9月11日夜から名古屋地方を中心に記録的な大雨となった。連盟事務局のある豊橋は大丈夫だったが、メールや電話でご心配いただいた全国の皆様、ありがとうございました。また名古屋をはじめ、岐阜、三重で被害を受けられた会員の皆様、心よりお見舞い申し上げます。